

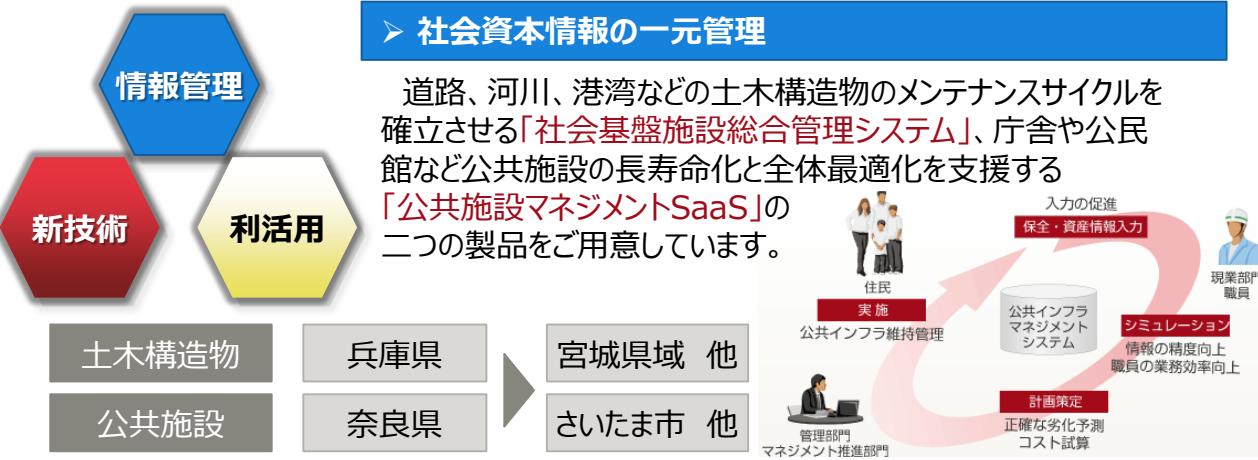
社会資本維持管理に関するICTの取り組み

1. 富士通の取り組み

社会資本の維持管理、および公共事業の効率化・適正化にむけてICTによる貢献を推進しており、「情報の統合管理」「情報の利活用」これらに「新技術」を取り入れながら取り組んでおります。

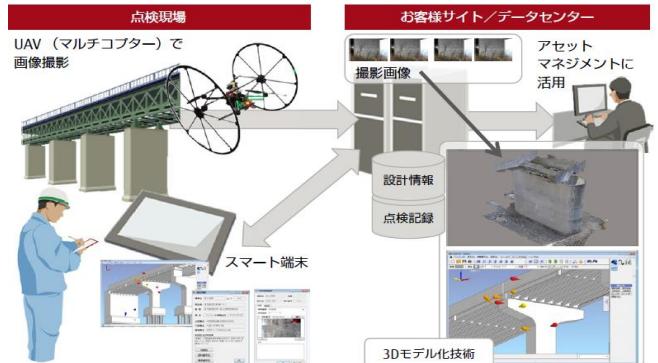
社会資本情報の一元管理

道路、河川、港湾などの土木構造物のメンテナンスサイクルを確立させる「社会基盤施設総合管理システム」、庁舎や公民館など公共施設の長寿命化と全体最適化を支援する「公共施設マネジメントSaaS」の二つの製品をご用意しています。



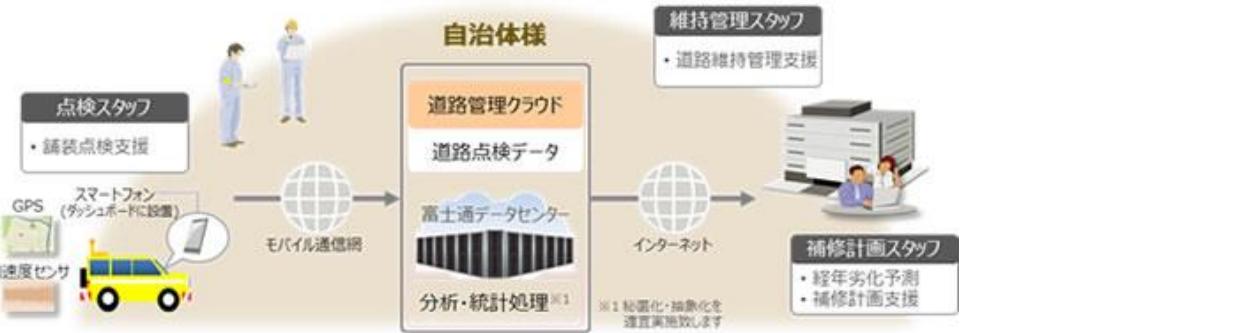
ドローンによる採取画像から3Dモデル化を橋梁点検で実証実験

UAV（マルチコプター）搭載のカメラを活用することで、模擬橋梁における点検対象箇所の近接画像を確認することができます。また撮影画像をもとに簡易的に3Dモデル（3D-CADや3Dテクスチャ）を生成し、3Dモデルに設計情報や点検記録を結び付けて情報を管理するモデルを実証。



道路データ分析サービス（富士通交通・道路データサービス(株) FTDR）

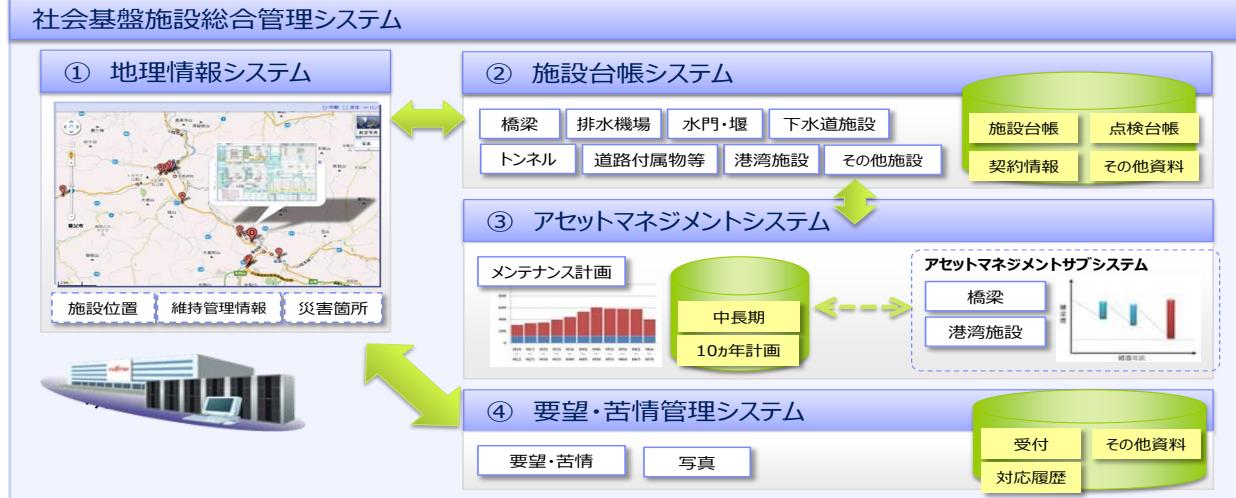
道路の路線管理や補修計画の支援を目的としたサービスです。乗用車のダッシュボードに設置したスマートフォンのモーションセンシング機能により、車を走らせた時の振動から道路の劣化状態を診断し、そのデータを蓄積するとともに、クラウドサービスで、舗装状況の簡易診断結果や道路点検の実績などを道路地図上にマッピングして提供します。



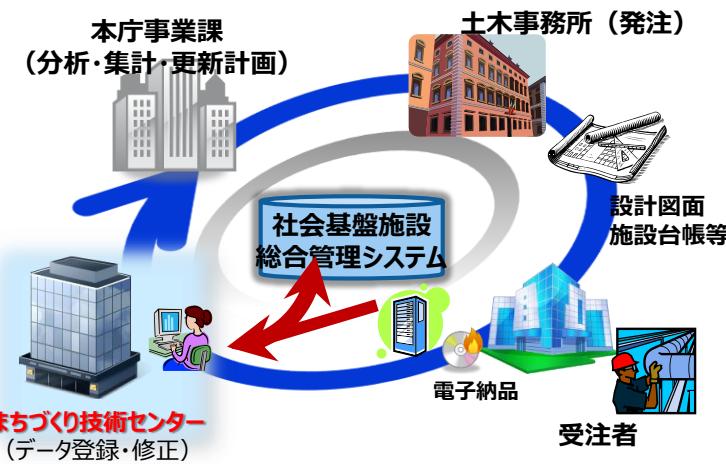
2. 事例紹介（社会資本情報の一元管理） 兵庫県

(1) システム概要

- 特長**
- 道路、河川他各分野・工種の施設を一元的に管理。
 - インフラコード（統一番号）採番による体系的な管理。
 - 維持更新計画、コスト推計などを分野横断的に把握。
 - 職員端末で利用でき、随時必要な情報（図面や写真など）を部内で共有。



(2) 現場職員の作業負担を軽減（運用ルール、体制の工夫）



- 従来の維持管理に加え、データメンテナンス作業の現場職員への負担に対し、技術センターを活用。
- 台帳メンテナンスの運用ルールを定め、データ整備の統一化および職員負担の軽減を実施。
- 電子納品成果物※を一部活用しデータの更新を実施。
※データの精度（点検業者等からの成果データのバラツキなど）課題は継続的に解決

(3) ひょうごインフラ・メンテナンス10箇年計画策定（平成26年3月～）

整備したデータを元に、健全度評価を行い全分野・全施設に対するメンテナンス計画を策定。

- 本メンテナンス計画に対して進捗管理を行い、メンテナンスサイクルを定着
- 電子納品成果物の利活用も含め、全体サイクル効率化を継続的に強化予定